

一字書課題 (10月22日締切)

- (1) 書体自由 (2) 半紙タテ
(3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
(4) 出品料 四四〇円
(5) パーコード券の余白に「二字書」と記入

娛

条幅随意参考

及守狗當稟者人

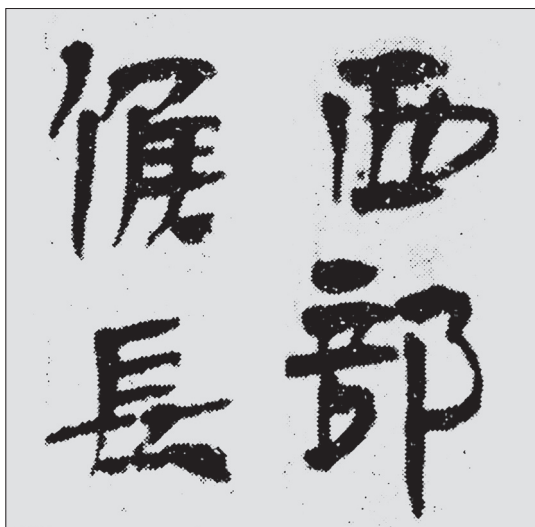
※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部（無料）にも出せます。条幅部に出品する場合はパーコード券余白に「条臨」と記入。



書跡名品叢刊『木簡殘紙集2』（二玄社）

高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

(10月22日締切) 出品料440円



木簡（敦煌漢簡）

第六回
1、字句 西部候長

- 2、形式 半紙タテ使用。中央に臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観 この簡は、隸書としては後期に属するものである。呼吸の短い線が随所に使われていて、かなり行書的であり、隸書特有の八分が見られないのも大きな特徴である。
- 4、各字のポイント

西 縦画三本は、起筆を強く打ち、終筆に向かって筆を引き上げる。一画目と三画目の横画は間を詰め「口」の中を広く見せる。

部 偏の横画三本は、終筆に向かって引き上げる。「口」、旁は行書的な動きを見せる。

候 人偏は、幅を狭くし、長く伸ばしている。それにひきかえ、旁は、幅を十分にとって構成している。

長 一画目の縦画起筆強く、終筆では引き上げる。短い横画三本は、縦画の中で軽く突く。長横画も軽いタッチ。終画は、八分としない。

条幅部漢字課題参考

(十月二十二日締切)

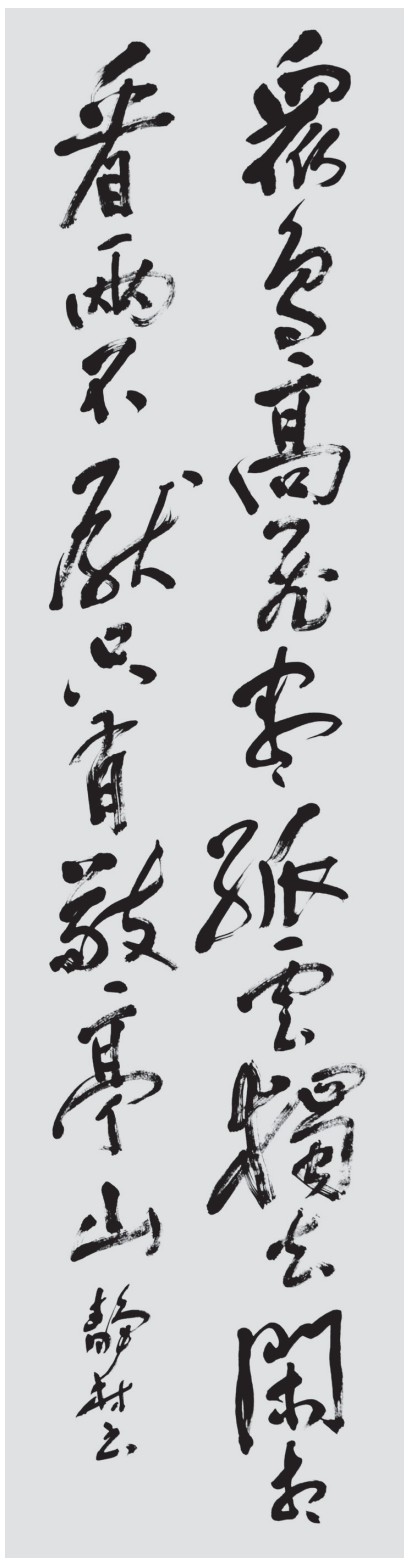
A 高橋香樹会長書

衆鳥高飛盡 孤雲獨去閑 相看兩不厭 只有敬亭山(李白)
 衆鳥高く飛んで尽き、孤雲独り去って閑かなり。相見て両つながら厭かざるは、只だ敬亭山有るのみ。



B 鈴木静村先生書

五言絶句、二十字の課題。二行にするか三行にするか迷いましたが、二行としました。その為、「孤・去・相・不・只・山」を意識的に小字としました。草書を入れることにより、行の流れを表出できたかと思えます。墨継ぎは「去」と「只」。



大小の変化への切り込みを——表出上、「大小」が打ち出し易いので、この点を意識して書いてみました。特に初歩段階者は大小の変化に乏しく、同じ大きさの文字を連続する傾向が見られるので、大小への思い切った表出を。墨継ぎは左右が並立しないよう、バランスに留意のこと。

訳：鳥たちは高く飛んでいなくなってしまう、離れ雲も独り去って後は閑かになった。互いに向かいあって見厭かぬは、敬亭山があるばかり。

予告(十一月二十二日締切)

水能性澹為吾友 竹解心虚是我師(白楽天)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

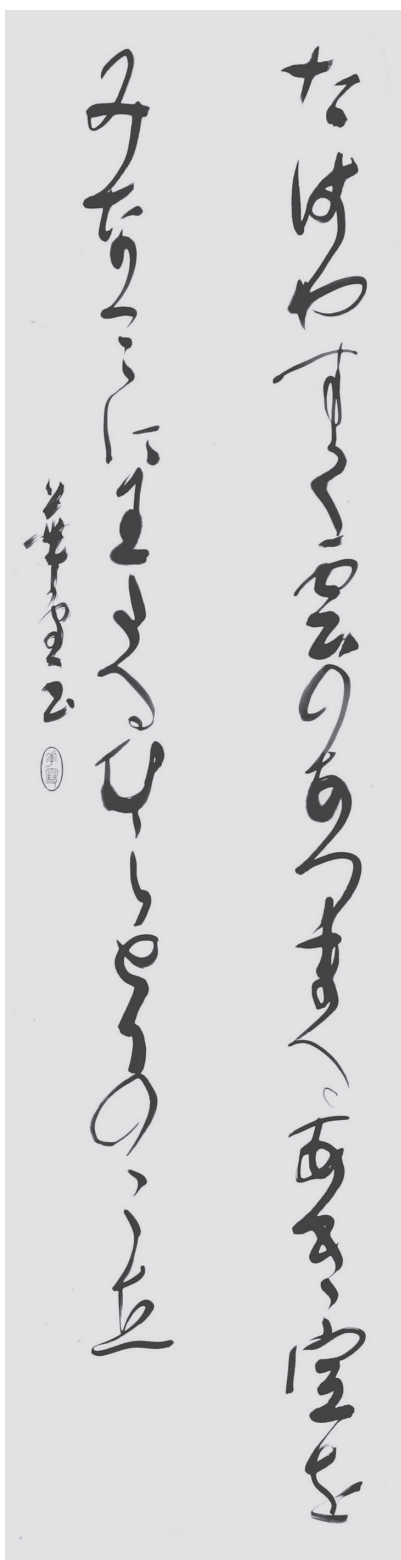
条幅部かな課題参考

(十月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

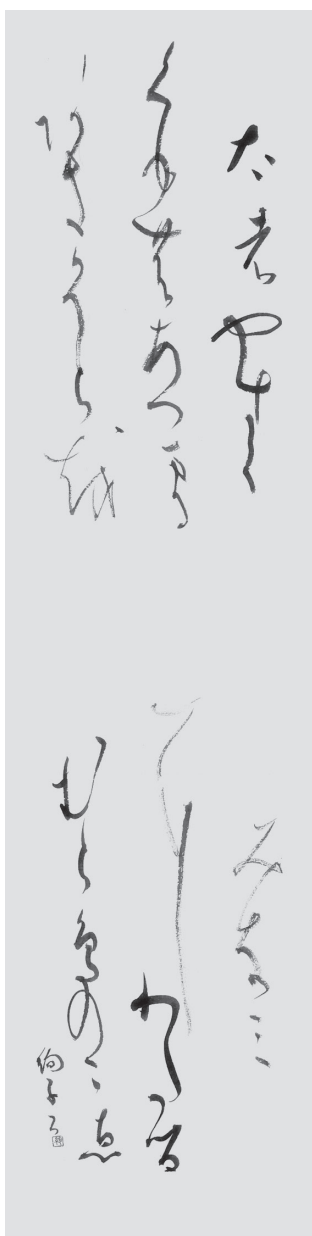
たはやすく雲のあつまる秋ぞらをみなみに渡る群鳥のこゑ (半田良平)
たはやす久雲のあつまるあき空をみな三に王多るむらとりこの恵



B

宮 絢子先生書

た者やす久くも農あつ万る阿支曾ら越
みな三耳わ多留むら鳥のこ恵



半田良平について
明治二十年(一八八七)
昭和二十年(一九四五)
栃木県生まれ。
『国民文学』同人。歌集
「野づかさ」「幸木」の他、
短歌評論、翻訳、美術評論、
民族学研究等。

学び方

この歌は一九四四年七月にサイパンで戦死した子息を悼んで詠まれたということです。「たはやすく」は「たやすく・容易に」の意。南に飛んで行く群鳥の鳴き声は、南の島サイパンで散った子息への限らない思いを、つらくかき立てるようです。

平岡華雪先生の半切仮名は、二行書きが多いのですが、あえて、上下二段構成に挑戦します。

書く前に、何度も読んで歌意を解釈し、詠み手(半田良平)の心の在りようを想像します。自分なりに解釈した語や文を強調して表現できるようにします。このうたでは、「群鳥の声」に墨量が充分残るようにしてみました。

予告 (十一月二十二日締切)

風さゆるとしまが磯のむら千鳥立居は浪の心なりけり (新古今和歌集 正三位季經)

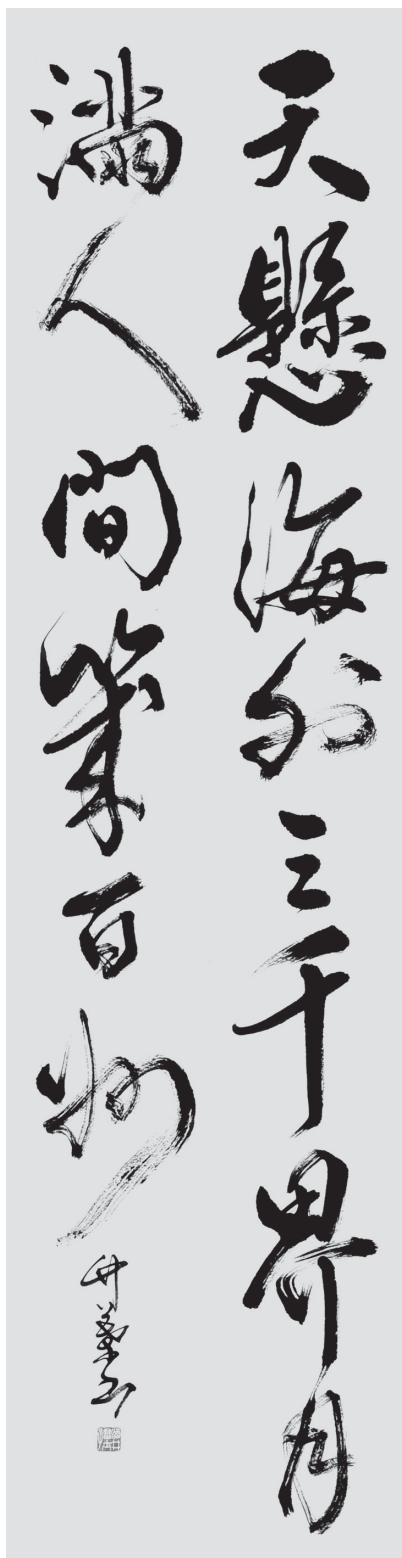
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部随意参考

酒井竹葉先生書

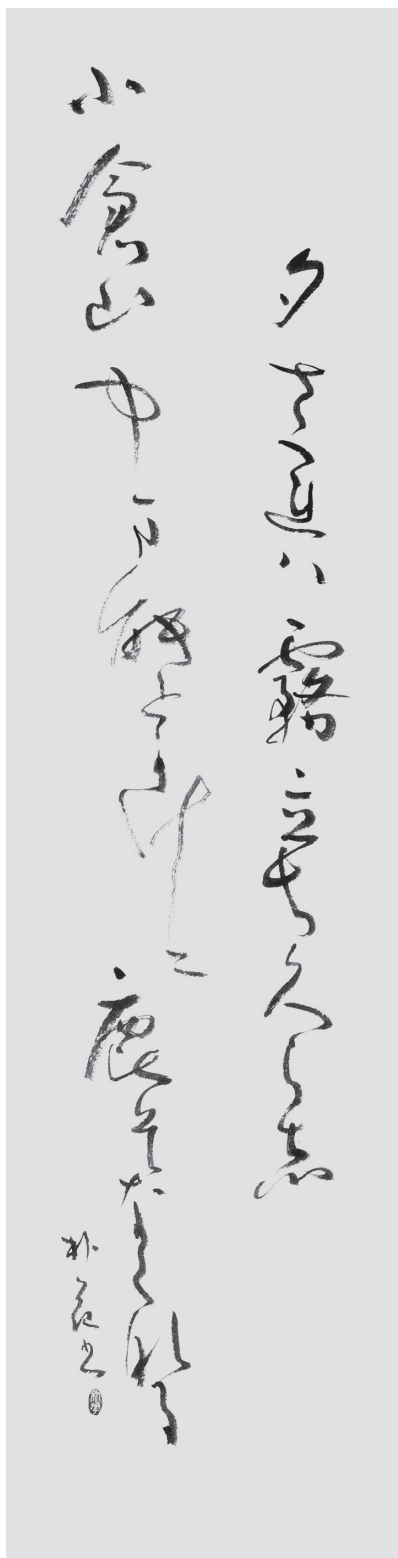
天懸海外三千界 月満人間幾百州（劉詵）
天は懸る海外三千界、月は満つ人間幾百州。



訳：天は海の外なる三千世界までもおおい、月はこの世の数限りなき国を照している。

向山朴花先生書

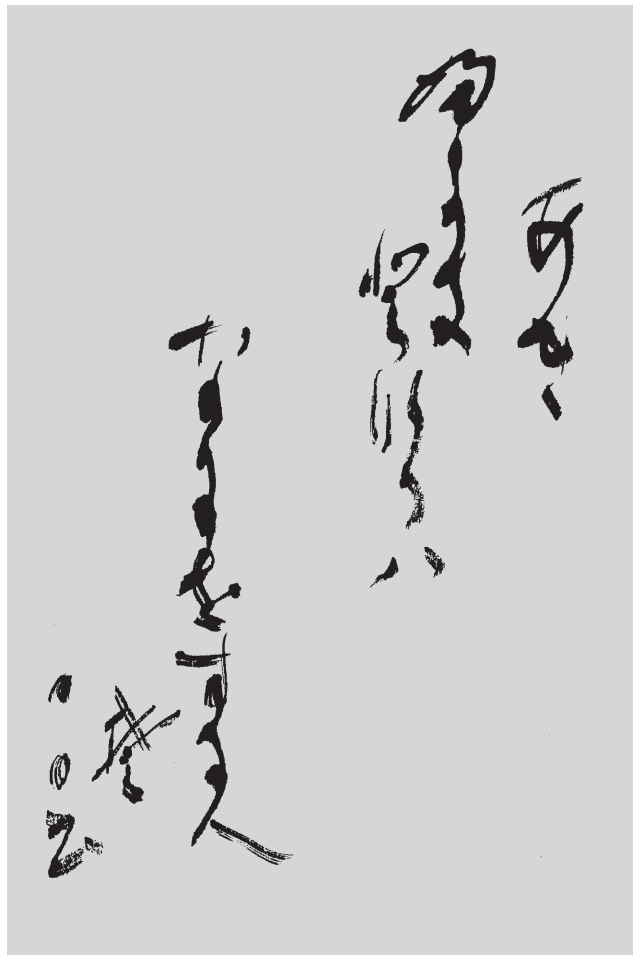
夕されば霧立ちくらし小倉山やまのとかげに鹿ぞなくなる（源実朝）
夕さ連八霧立ちくらし志小倉山也万能と可計二鹿そな久那る



歌意：夕方になると霧が立ってくるらしい。小倉山の常に日のささない陰に鹿の鳴くのが聞こえる。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

かな部課題参考 (十月二十二日締切)



(十一月二十二日締切)

ゆふちどりまつばらこ
夕千鳥松原越えて濱移り (花蓑)

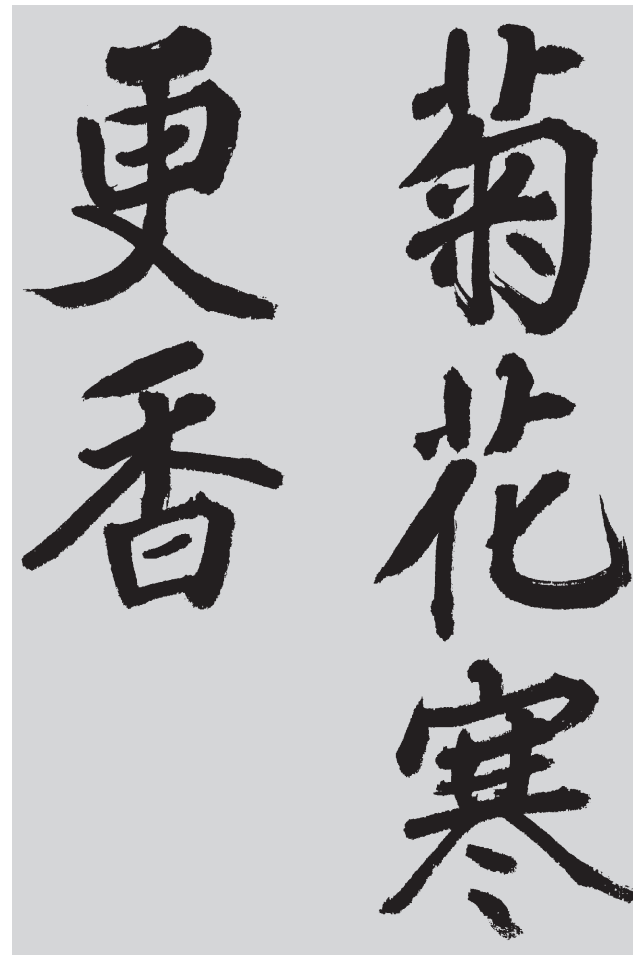
平岡華雪先生書

秋深きとなりは何をする人ぞ (芭蕉)
あき婦可支登那り八な尔をする人楚

《鑑賞を通して》

全体鑑賞の焦点は、まず、行頭・行尾の変化と行間の広狭のとり方です。次に、横画の方向に留意。画の方向、傾きに工夫し、“動き”を表出するように努めて下さい。

漢字部課題参考 (十月二十二日締切)



(十一月二十二日締切)

委懷在琴書 (陶淵明)

平岡華雪先生書

菊花寒くして更に香し (陸游)
訳：菊の花は寒くなるほど香を増す。

- ① ㄥ ㄥ ㄥ
② ㄥ ㄥ ㄥ
③ ㄥ ㄥ ㄥ

《「寒」の筆順について》

①②③のいずれも可。また、横画を四本にしたものが王羲之の時代にあります。字典を参考に試してみることがよいでしょう。

(4)

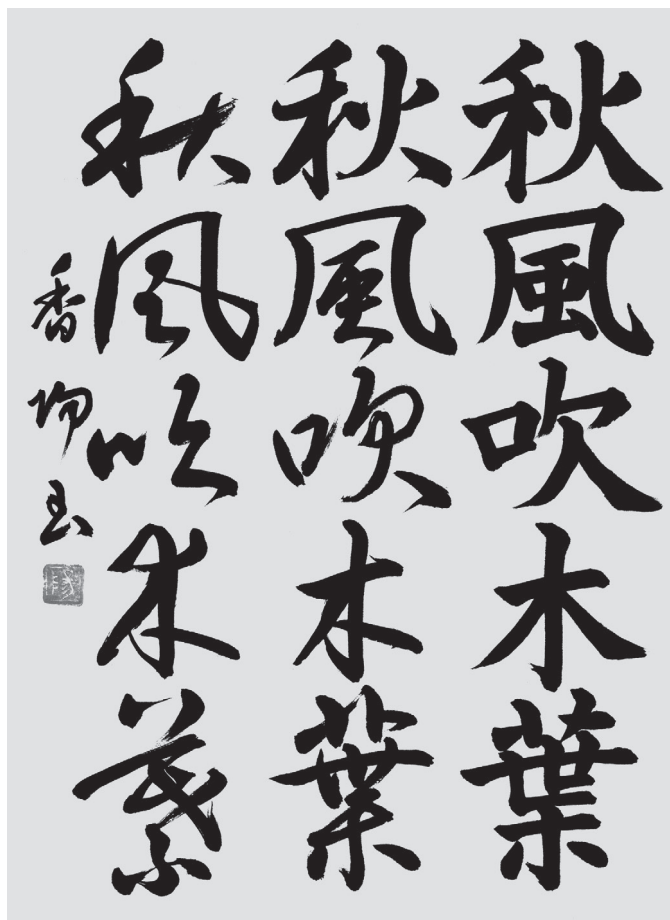
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考（十月二十二日締切）

漢字かな交じりの書課題参考（十月二十二日締切）

訳：秋風が木の葉を吹き落としているさまは、（なんとなく洞庭湖の波に似ている。）

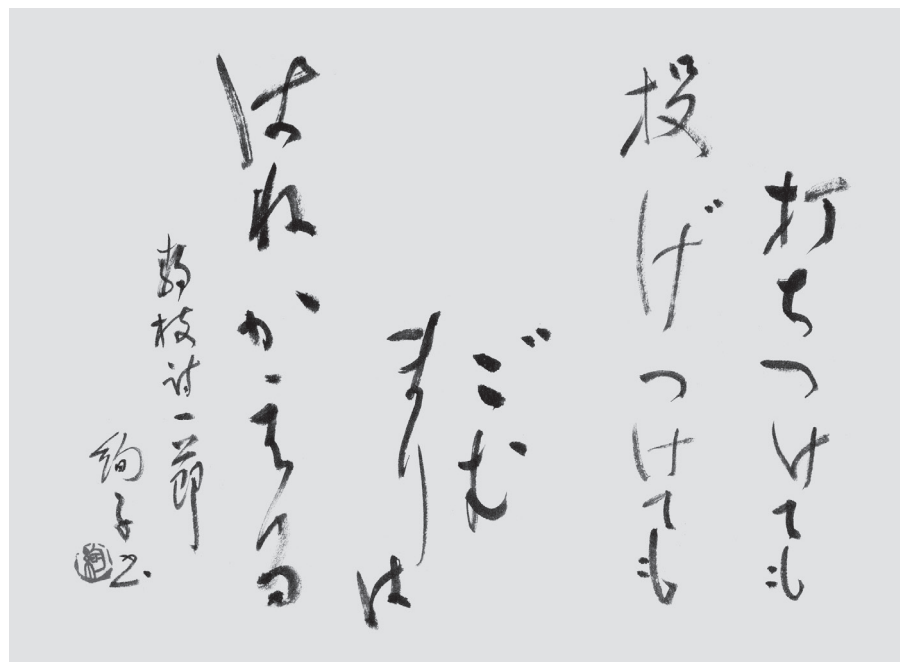


福田香陽先生書

秋風吹木葉（王褒）

秋風 木葉を吹けば

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

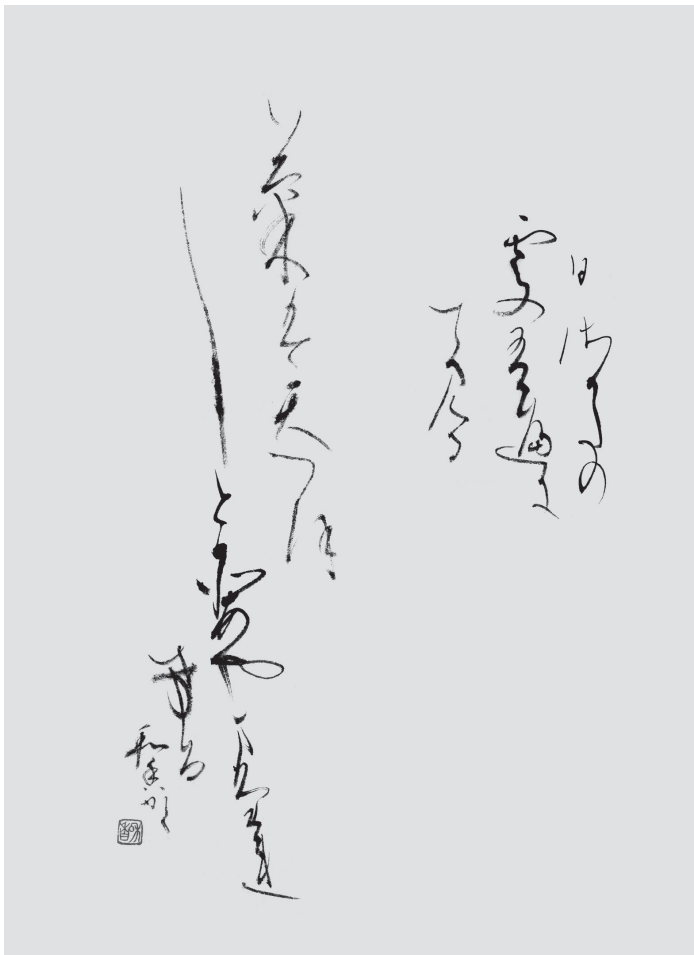


宮 絢子先生書
打ちつけても
投げつけても
ごむまりは
はねかえる
（宮静枝の詩の一節）
「ごむ毬の叛逆」と題
する昭和六年六月発表の
義母の詩の一節である。
「ごむ毬」の如く、正義
に対する強い信念を持っ
て九十余年の人生を全う
した義母である。
「ごむまり」に力を込
めるか、「はねかえる」
に込めるか。筆を持つ人
の思いで決まる。どのよ
うに仕上がるか、出題者
の楽しみにするところだ
ある。

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

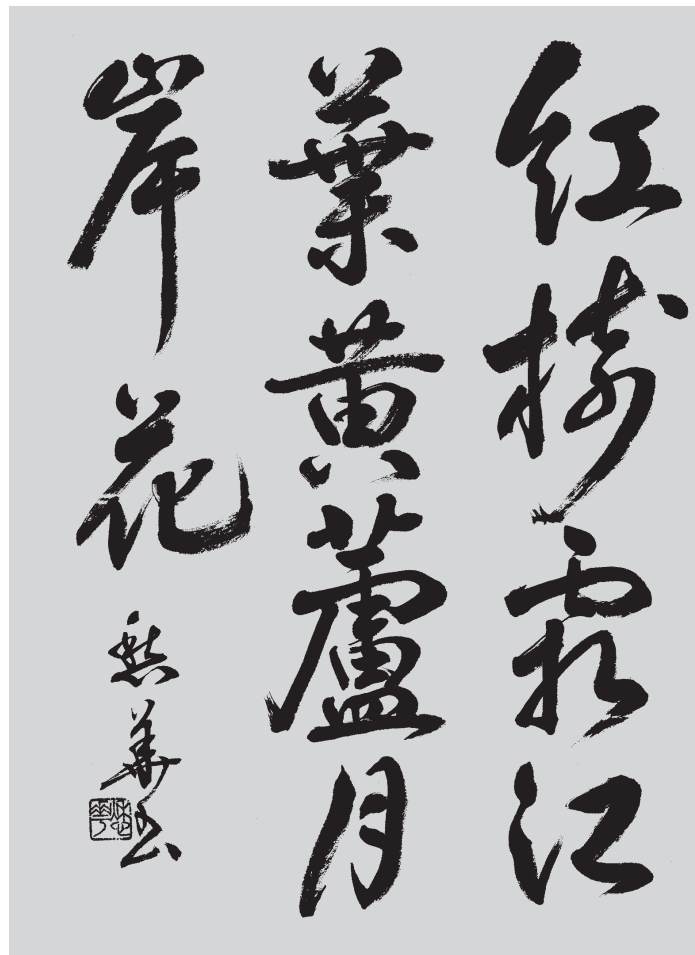
歌意…（ひさかたの）雲上である御所で今見る菊の花は、空の星と見誤られることである。



小林和香先生書

ひさかたの雲のうへにて見る菊は天つ星とぞあやまたれける（古今和歌集 藤原敏行）
日佐可多の雲の有遍尔て見る菊盤天つ保しと所あや万堂連希る

訳…もみじした樹は霜降った江のほとりに、花が月に白く照らされているのは葉の黄になつた芦である。



石田愁華先生書

紅樹霜江葉 黄蘆月岸花（葉鋪）
紅樹霜江の葉、黄芦月岸の花。

硬筆部課題参考

(十月二十二日締切)

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)

空にひろがる檜の樹海の
苔むすほとりに二人が座った。
芝生からは泉が湧き出て
二人の足許で音を立てた。

午後の陽を反射させ、廣い河はゆるやかな曲線を描き、流れている。水面は灰色に濁り、水量は豊かで河床は見えない。

課題1 (初段以上)

午後の陽を反射させ、廣い河はゆるやかな曲線を描き、流れている。水面は灰色に濁り、水量は豊かで河床は見えない。

『深い河』遠藤周作

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)。
- (4) はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段格以下)

空にひろがる檜の樹海の
苔むすほとりに二人が座った。
芝生からは泉が湧き出て
二人の足許で音を立てた。

『ワーズワース』『泉』